

# 中国における空手道の受容・展開過程に関する研究

—1922年から2018年に着目して—

スポーツ文化研究領域

5018A039-1 謝 効文

要旨本文

## 1. 研究背景

新中国建国前、日本統治時代台湾の50年間において空手道が普及されてきた。新中国建国後、中国に日本の空手道が伝えられたのは、1990年頃のことである。2005年以降、日本の空手道界がオリンピック種目化の申請をするに及び、中国においても空手道は中国武術のライバルとして注目されはじめ、それに伴い空手道の研究と実践がなされるようになった。2016年に空手道が東京オリンピック追加種目に決定されると、空手道の研究が一気に活発化されたが、その受容と展開についての包括的な研究はなされていない。本研究はこの状況に注目し、以下の課題を設定してこれに取り組むものである。

課題1（第一章）：建国前における空手道の受容過程（1922-1949）を調査・考察する。（1922-1949）これは中国における空手道を理解するための基礎的な作業である。

課題2（第二章）：建国後における空手道の受容・展開過程（1949-2018）を調査・考察する。1984年に中国における空手道の導入以後、約30年間が経過した現在、全国で240の競技団体（各省、学校競技チームなど）が中国空手道協会に加盟して、競技者は10万人以上が存在している。しかし、その詳細な研究は未だなされていない。

課題3（第三章）：中国スポーツ機関の管理下における空手道の展開過程（2006-2018）とその問題点を調査・考察する。空手道の文化性とオリンピック種目化に伴うビジネスイベント性との相克の問題が

研究指導教員：志々田 文明 教授

ある。現在、中国空手道協会による空手道普及の方針にどのような問題点があるかを考察する。

以上により空手道の受容・展開過程を包括的に描こうとするのが、本研究の目的である。なお、本研究は史資料とインタビュー調査に基づいて行う歴史研究である。

## 2. 本研究の構成及び概要

### 第一章

本章では、日本統治下台湾に注目し、『台湾日日新報』の記事を用いて分析して、新中国建国前における空手道がどのような受容されたてきたのかを明らかにした。その結果、(1)日本統治時代台湾における空手道を初めて紹介したのは喜屋武朝徳であること、(2)彼は1926年11月に台湾のホテルで空手道の基本技術を演武した後、1927年2月に再度来台して、安良城と一緒に台湾南部地方を中心に軍隊、警察官、学校で空手道を普及し、首里手や泊手を紹介したこと、(3)1940年3月に、早稲田大学空手部員の上田正敏、鎌田敏夫は台湾全島警察官練習所と植物園内武徳殿で「松濤館流」空手道を紹介した。

### 第二章

本章では中国（台湾、香港、澳門を除く）に注目し、日中両国の新聞記事、中国空手道研究者が出版された論文を用いて分析して、中国建国後における空手道どのような受容、展開してきたのかを明らかにした。その結果、以下が明らかとなった。(1)日本人の銘苅拳一は上海の友人を紹介して、ブラジル大統領の推薦により1990年に上海

で空手道の普及を開始した。銘苅拳一の中国で空手道普及の動機については、彼は空手道を通して日中交流を促進することを希望した、(2)『人民日報』の記者は空手道の歴史の起源、精神文化、特に中国武術との関係を中心に言及した、(3)中国研究者達は空手道の起源が福建南拳であることを主張した。また、空手道流派の技術特徴に対する認識は表層に止まっていると思われた。以上から次の2点を指摘した。(1)研究者達は空手道世界中の普及、技術動作、礼儀作法の方面は中国武術より優先され、将来中国武術の発展ためには、同様にこれらの要素を参考すること必要なこと、(2)中国研究者達が中国空手道普及・発展について空手道選手が空手道の知識不足、大学空手道教師の人数不足、政府が「競技空手道」のみを重視していること。

### 第三章

本章では国家体育総局が出した文書及び新聞記事(2006-2018年)、「中国空手道協会関係規程」、「中国空手道指導教範」と中国における空手道普及活動について関係者の何泓孝氏にインタビューした内容を用いて分析して、中国スポーツ機関管理下における空手道がどのような展開されてきたのかを明らかにした。その結果、以下が明らかとなった。(1)国家体育総局は中國最高行政機関である國務院の直属機関であり、中国空手道協会は国家体育総局下の「ボクシング・テコンドー運動管理センター」の管理下に置かれていること、(2)中国空手道協会成立の前期における、澳門、香港、日本の協力下で全国教練員・審判員養成会の開催、ナショナルチームの編成、全国選手権大会の開催を行ったことがわかる、(3)中国上海市、天津市、広東省などの沿岸都市が加盟数は多く、全体の61%を

占めている。ここで、中国の沿岸都市の空手道の発展が内陸の省や都市よりも優れていること、(4)2007年、広東省で中国初の全国空手道選手権大会が開催された。2018年に全国空手道競技試合制度を改革し、全国空手道選手権大会(年5回)、全国空手道U18選手権大会(年3回)などの全国空手道競技大会を設置している、(5)全国空手道指導員の申請条件については、稽古経験、現有段位レベルと中国空手道協会に関するイベントへの参加状況を重視している。また「空手道師範」は空手道の稽古経験、年齢、段位レベルが「競技空手道教練員」の条件をより高くなっている、(6)全国空手道指導内容は技術だけでなく、礼儀作法、試合規則、空手道術語も重視している。

### 終章

本研究の成果は以下の通りである。

(1)新中国建国前、日本人は日本統治時代台湾の50年間にわたって松濤館流、首里手の空手道を普及してきた。

(2)新中国建国後、銘苅拳一は上海出身の友人を介して、ブラジル大統領の推薦により1990年に上海で空手道の普及を開始した。1999年に上海市武術協会空手道委員会を成立し、総監督に就任した。多年の努力によって2007年までに中国空手道練習者は10万人に達し、中国における空手道普及に大きな影響を与えた。

(3)2012年、全国に空手道の普及を拡大するため、全国空手道教範の『体育空手道』が出版された。その内容は一つ流派を中心構成されており、各流派を総合的に論じた理論及び方法書が必要である。

### ○主要文献

- ・中国空手道協会、2016年、『体育空手道』、合肥工業大学出版社、pp24-164.
- ・『人民日報』、1974-2018年の報道。